

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年6月13日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970800086		
法人名	社会福祉法人 合歓木の会		
事業所名	グループホーム 百日紅の家		
所在地	高知県土佐清水市グリーンハイツ42番1号		
自己評価作成日	平成23年4月30日	評価結果 市町村受理日	平成23年6月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、利用者が穏やかに、ゆったりとその人らしい生活を送ってもらよう、職員は利用者の自尊心を大切に、自分の家族として関わりを持ちながら日々の支援に取り組んでいる。秋祭りを通じて地域住民やボランティアと交流したり、幼稚園児と触れ合う機会を設けている。また、利用者の希望や意向を大切にしながらも、自然環境に恵まれた庭で外気浴をしたり、動物との触れ合い、出身地域へのドライブなど、外出支援に取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokouhyou.jp/kai gosip/infomationPublic.do?JCD=3970800086&SCD=320&PCD=39
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成23年5月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は宅地団地の高台にあり、庭は背後の樹木とつながり自然環境に恵まれている。団地内には同法人のグループホームがあり、3事業所で合同のイベントを開催し、地域住民やボランティアと交流している。小学校や幼稚園とも行事を通して相互交流をしており、特に、幼稚園児は散歩時に立ち寄り、おやつと一緒に食べるなど、利用者や触れ合う機会も多い。職員は利用者の身体機能の低下や気持ちの変化による様々な利用者の思いを汲み取り、自尊心を大切にしながら、家族同様に日々の暮らしを支援している。外出を嫌がる利用者を戸外に誘導するため車椅子を増やしたり、機能訓練のためのルームマシンの整備や段差解消のためのブロックの利用など、代表者とコミュニケーションを図りながら利用者本位に取り組んでいる。また、家族との意思疎通には個別面談を通じて協力依頼や情報の共有をしており、家族との信頼関係を築いている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名： 百日紅の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は事業所理念に沿ったサービスができるよう毎日のミーティング、月に1回のケア会議で話し合い、実践につなげている。	事業所を家とし、利用者には家族として接することを念頭に、日々の申し送りでケアを振り返るとともに、毎月の職員会には代表者も参加し、理念の意識づけを行いながら、利用者の思いを尊重した支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	市民による花展を鑑賞したり、幼稚園や学校の行事に参加したり、地域のボランティアによる日本舞踊やフラダンス、カラオケや演芸などを通して交流している。	地区の清掃活動に参加したり、団地内にある同法人の3事業所合同のイベントを通して多数の地域住民と交流している。また、幼稚園や小学校の子どもたちと行事を通して交流しており、特に、法人系列の幼稚園児が散歩時に立ち寄り、おやつと一緒に食べるなど、日常的な触れ合いがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の清掃活動や事業所の秋祭りを通して地域住民に認知症に関する理解と支援してもらおうようにしている。また、敷地内にミニアスレチックの設備を行い、地域の子ども達に野外活動を楽しんでもらうようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催し、その中で利用者の日常生活やサービスの実態、評価への取り組みについて報告している。参加メンバーから出された意見はサービスの向上に活かしている。	利用者や活動の状況等について事業所から報告し、参加委員と意見交換を行い、出された意見等は運営に活かすとともに議事録を家族に送付している。なお、この1年間の会議の開催は5回となっていることと、評価に関する意見交換は行われていない。	評価結果やその後の対応等についても議題にあげるとともに、会議の開催回数は運営基準に沿った取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、市の職員に毎回参加してもらい率直な意見をもらったり、時には電話で助言をもらったりしている。また、敬老会などにへの参加を通して、利用者や事業所の実情等について理解を得ている。	市の担当課とは、実地指導や運営推進会議を通して助言を受けたり、日頃から運営に当たって疑問などがあれば電話で聞いたりしている。また、市の職員も事業所の行事に参加して利用者や交流している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の禁止の対象になっている具体的な行為について職員は理解しており、日々のケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する研修会に参加し、伝達講習を行い、職員の理解を深めている。言葉による行動抑制にも注意しているが、場面に応じてその都度管理者と職員で話し合っている。外出傾向のある利用者には話を聞きながら散歩やドライブするなどの対応をしている。庭側の通用口は段差があり安全確保のため施錠している。	通用口の扉は安全確保のため施錠しているが、開け閉めの際はノブに吊るしたベルが鳴るよう工夫しており、利用者の自由な暮らしを支援する意味でも、日中は鍵をしない取り組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修に参加し、報告を受けたり、理念に掲げる個人の尊厳を大切にするケアを徹底し、虐待を見過ごさないようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	講習を受け、日常生活自立支援や成年後見制度を学び、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書等の内容を家族に十分説明し、不安や疑問点を尋ね、理解と納得を得たうえで契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者相談窓口の説明や意見箱を置いている。利用者には機会あるごとに会話の場を持ち、思いを把握している。家族とは事業所への訪問時や電話などで意見を聞き、運営に反映させている。	家族会を結成し、年に1回運営推進会議の後に開催することになっているが、仕事の都合等で参加者は少ない。このため、家族の面会時や利用者の状況に応じてその都度話し合うようにしている。また、介護計画書に家族の意向を記入してもらったり、運営推進会議の議事録を家族に送付するなど、意思疎通を図る工夫をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は毎日事業所に来て状況を把握したり、職員会にも毎回法人関係者が参加し、職員とのコミュニケーションを図り、提案等を受けて運営につなげている。	職員会には代表者の参加もあり、職員の意見や提案を聞いている。利用者の移動補助のため車椅子を増やしたり、雨よけの庇や倉庫の増設など、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員面談等を通じて個々の勤務実態等を把握し、職員が生きがいを持って働ける環境や条件整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員にはできるだけ研修に参加する機会を設け、ケアなどの質の向上を図っている。また、法人内の事業所間での交流研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会や幡多地区のケアマネージャー連絡協議会や研修会の参加を通して情報交換等を行い、サービスの質の向上に活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	詳細なアセスメントで生活状況を把握するとともに、本人の要望や思いを叶えられるよう、信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と面談し、困っていることや不安に耳を傾け、家族の思いを理解し、安心してサービスを利用してもらう環境づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の状況や要望を傾聴し、事業所でのサービスや他のサービスも含めて、必要としている支援ができるよう検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事の準備をしたり、家族の話、ふるさとの話、日常の出来事を話題にすることで、一人ではないという安心感を持ってもらうようにしており、職員は理念に掲げる「家」「家族」を常に念頭に置き、共に暮らす関係を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が身体的、精神的に不安感を持っている時には家族に連絡を取り面会に来てもらったり、時にはホームに泊ってもらったり、外泊などの協力をしてもらおうなど、共に支え合っていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から交流のある知人宅を訪問したり、行きつけの理髪店や美容院に行ったり、墓参りに行くなど、家族の協力を得ながら支援している。また、知人の方に事業所へ来てもらうよう声かけするなど、関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人、知人の面会を受けたり、同法人の他の事業所の馴染みの利用者を訪ねたりしている。また、ふるさと訪問で自宅周辺や出身地の景観を楽しんだり、知人宅や親類宅に立ち寄り交流したり、墓参りに行くなど、家族と協力し合いながら、これまでの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、気の合う利用者同士で座ったり、職員が間に入り一緒に会話するなど心配りをしている。ゲームを通じた関わり合いや、散歩時には元気な方に車椅子を押してもらうなど、支え合いの関係もできている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、必要に応じて相談を受けるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活習慣等を大切に、利用者との会話や表情、動作などから、その日の暮らし方の希望を把握したり、思いを推測したりしながら、本人の意向に沿った暮らしの支援につなげている。	利用者一人ひとりの生活歴や趣味などをアセスメントのうえ、職員間で共有し、利用者との会話や何気ない行動などから、その思いや希望を把握している。また、職員から声かけや場面づくりをしながら意向を汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族の話を傾聴したり、関係者から情報を収集し、一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の支援の中で、職員の気づき等を大切にし、一人ひとりの心身の状況やできることなどの現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を聞いたり、ケア会で本人がより良く暮らすためのケアのあり方について職員で話し合い、介護計画を作成している。	管理者が毎月モニタリングを行い、利用者や家族の要望や職員の気づき等も踏まえ、カンファレンスを行い、介護計画を作成している。3カ月を基本に見直し、入退院など利用者の状況に応じてその都度見直している。家族の意向把握の工夫として介護計画書に直筆でコメントをもらうようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ったケアの実践状況や職員の気づき等を個別のケア記録や申し送りノートに記載し、職員間で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の都合に応じて職員が通院に付き添ったり、家族が面会に来れない場合は、利用者を自宅に送迎するなど、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの美容院や理髪店、喫茶店に出かけたり、ボランティアによる歌や踊り、小学生、幼稚園児との交流など、豊かな暮らしを楽しんでもらうよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望するかかりつけ医で受診できるように支援している。市内の病院は全て協力医となっており、利用者の身体状況や症状等を報告し、適切な医療が受けられるよう支援している。	利用者、家族の希望するかかりつけ医で受診できるよう支援している。通院介助は職員対応を基本としており、状況に応じて家族の同行を依頼している。受診結果は申し送りノートやケア記録で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護を受け、一人ひとりの身体状況等について相談したり、訪問時以外にも電話で相談している。また、協力病院の看護師にも必要に応じ電話で相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には見舞に行ったり、家族、医師との話し合いを持ち、治療方法や退院見通しなどについて情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と重度化した場合の意向など話し合い、その意向に沿った支援ができるよう、地域の病院や他の施設等に相談しながら支援していくようにしている。	重度化した場合の対応指針を入居時に利用者、家族に説明し、同意を得ている。看取りの事例はないが、利用者の状態や家族の意向等を確認し、医療関係者と連携して方針を共有しながら支援していくようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備え、職員は研修や定期的に訓練を行い、実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の人にも参加してもらい定期的に消火訓練を行っている。また、自主的に避難訓練を行っている。	利用者、職員による避難訓練を年2回実施し、うち1回は消防署の指導を受けている。団地内の勤務明けの職員も参加しているが、地域住民の協力は得られていない。災害時の非常用の食料等は準備している。通用口から出る際に段差があり、ブロックを利用して階段状にするなど工夫が見られる。	災害時には地域の協力が欠かせないので、運営推進会議や地区会などを通して地域住民の参加、協力を呼びかけるとともに、利用者の身体機能の低下に伴う通用口の避難路としての安全面の検討を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、その人の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや対応を行っている。	職員は、日頃から自尊心を大切にするケアを心がけており、日常の言葉遣いや、排泄や入浴などのケアの場面であからさまな声かけはせず、利用者の思いに沿って同性の職員や気の合う職員が交替して対応するなどの配慮もしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人から思いや意向を聞いたり、自己決定したり、選択できる場面づくりに配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを大切に、その人のペースに沿って過ごしてもらうとともに、縫物などの手仕事、計算ドリルや運動など、本人の得意なこと、好きなことを楽しんでもらうよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの洋服を選んでもらったり、行きつけの美容院、散髪屋に行ったり、訪問理美容を受けるなどして、その人らしい身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを聞き、献立を作っている。盛り付け、片づけ、魚さばきなどを職員と一緒にしている。外食したり、お弁当を作り庭で食べることもある。	家族から野菜や魚の差し入れも多く、利用者の希望を聞きながら職員が献立を作っている。利用者はそれぞれの能力に応じて調理の下ごしらえや盛り付け、片づけなどを自分の仕事として職員と一緒にしている。食事中は比較的静かであるが、時折会話をしながら職員と一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給は食前にゼリーを摂取している。各自あった分量を盛りつけ、状況に応じて補助食品を摂取してもらうなど、一人ひとりに応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの声かけを行い、自分でできない利用者は介助したり、入れ歯も水洗いや洗浄剤を利用して清潔を保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを観察し、時間や表情などみながら声かけをして、トイレで排泄できるという誘導している。	利用者一人ひとりの排泄パターンや自立の状況に応じて、できるだけトイレで排泄するよう声かけ誘導をしている。状況に応じて紙パンツやパッドを使用し、夜間のみオムツにしたり、ポータブルトイレを用意したり、身体機能の低下により失禁がある場合も自尊心を傷つけないよう配慮しながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	植物繊維の野菜の摂取を心がけたり、水分補給、運動を奨励するなど、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望に沿って入浴してもらうよう、声かけして自己決定をしてもらうようにしている。時間帯も本人の希望に合せている。	利用者の希望に沿って、14時から夕食後までの間に柔軟に入浴支援をしており、毎日入浴する利用者もいるが、概ね2～3日毎に入浴している。これまで入浴していた利用者が入浴を拒む事例があり、足浴や洗髪をしながらその背景などを検討し、話し合っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調や意向に沿って希望の時間に昼寝や休息をしてもらうようにしている。夜間眠れない時はお茶を出したり、職員と会話をしたりしながら安眠につながるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者毎の薬の処方綴りで職員全員で服薬情報を把握し、薬が変更になった場合は、申し送りや随時に報告し合い確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	計算ドリルをしたり、食材の下準備や魚焼き、食事の盛り付け、洗濯物のかたづけなど、役割分担や本人の好きなことを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的に外気に触れること場面づくりに配慮し、庭に出たり、近くの法人のグループホームに出かけたり、ドライブで自宅周辺を散策したりしている。また、外食やカラオケ喫茶、彼岸の墓参り、初詣、花見など、機会を捉えて外出支援をしている。	利用者は身体機能の低下等により歩くことを嫌がる傾向があるが、自然環境に恵まれた庭で食事したり、ベンチで会話したり、週に1回はドライブに出かけ、また、月に1回は外食や花見などに出かけるなど、できるだけ外気に触れる機会を作っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が少額のお金を所持している方もいるが、ほとんどの利用者は事業所で預かっており、買物支援も現在は困難となっており、希望に応じて職員が買物の代行をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が家族に連絡をとりたい時は、職員が家族に電話して取次いでいる。また、年賀状を書く支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食卓には季節の花を飾り、折紙や壁飾りで季節感を採り入れている。ホールの天窓からの採光は季節に応じて調整したり、室温も小まめに調節するとともに、毎日利用者と一緒にホールの掃除をするなど、過ごしやすいように心がけている。	明るいいりビングには食卓やソファを使いやすく配置し、普段、演劇などの披露ができる畳の座に五月人形の壇飾りを置いたり、壁面には行事の写真や利用者の貼り絵や塗り絵、小学生からの手紙などが貼られ、生活感があり、日頃の暮らしぶりが窺える。また、庭の随所にベンチを置き、くつろぎの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置いたり、玄関先や庭に椅子を置くなどして、利用者が思い思いにくつろげる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には本人の好みの使い慣れた物を置き、その人が居心地よく過ごせる環境を作っている。親類の方が送ってきた写真を飾ったり、暗くして休んだ方が落ち着く場合はカーテンを閉めるなどの工夫をしている。	利用者が居心地よく過ごせるよう、衣装ケースや椅子などを持ち込むとともに、家族写真やぬいぐるみ、テレビなどを置き、それぞれ個性のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の残存機能を活かし、手摺をつけたり、居室入り口に写真を飾ったりして利用者が自立した生活が送れるように工夫をしている。		

ユニット名:

百日紅の家

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				